

チームオレンジ ～ このまちで自分らしく生きていく ～



1.基本情報(令和7年12月現在)

市・町名	五島市		
人口	高齢者人口	高齢者率	面積
33,111	14,390人	43.46%	420.12km ²

2.チームの概要

チーム名	「おれんじの樹」果樹園ごとう		
開始時期	令和4年10月31日 ～		
実施主体	☒ 市町 ☒ 地域包括支援センター ☐ 住民・ボランティア ☐ 社会福祉協議会 ☐ その他 ()		
チームオレンジ コーディネーターの属性	認知症地域支援推進員 1人		
メンバー構成	チームオレンジ「おれんじの樹」果樹園ごとうに登録申込みされた市民 40人		
活動頻度	声掛け、見守り訪問(てくてくパトロール) 年2～3回程 チームオレンジ集会・研修会 年1回 個人で地域の方に声掛け訪問 随時		
チームオレンジの種類	☐ 第1 類型 共生志向の標準タイプ ☐ 第2 類型 既存拠点活用タイプ ☒ 第3 類型 拠点を設置しない個別支援型タイプ ☐ その他		
チームオレンジ三つの基本について	☐ 3つの基本を満たしている ☒ 3つの基本は満たしていないものの仕組みが構築されている。		
運営財源	☐ 市町からの委託 ☐ 市町からの補助 ☐ 会費・参加費 ☐ その他 () ※上記の財源 ☐ 市町一般財源 ☒ 地域支援事業交付金 ☐ その他 ()		

3. チームオレンジの設置に至ったプロセス

- ・認知症サポーターは増えたが、具体的な活動に繋げるための支援を行っていなかった。五島市は高齢化率が高く、地域共生社会の実現には地域の住民さんの力が欠かせないと考えた。
- ・認知症施策では本人の声が大変と言われており、グループホームや認知症サポーター養成講座で、認知症の本人の気持ちを1つのおれんじの実に、支える人の気持ちを1枚の葉に記入してもらい、1団体1本のおれんじの木を計12団体作成。
- ・令和4年7月にステップアップ講座を実施。同年10月にチームオレンジ立ち上げの研修会(チームオレンジとは何か、おれんじの木を見ながら認知症の人の気持ちを知ってもらい地域の人々が何ができるか考えるグループワーク)を実施。その後に、チームオレンジへの登録者を募り、賛同いただいた32名で立ち上がった。



4. 活動内容

声掛け・見守り訪問(てくてくパトロールや個人活動)、認知症カフェや認知症家族会での支援、認知症啓発活動(R6年度:映画オレンジ・ランプ上映に協力)、研修会参加

5. 活動を進めて行く上で工夫したこと・配慮したこと

県内でも詐欺被害は増えており、声掛け訪問を行ううえで、チームオレンジを周知してほしい、身分が分かるものがあった方がいいという意見があがったため、活動時につけられる名札やベストを作製した。



6. ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

講座に申込みがあった団体へ認知症地域支援推進員が出向き実施。講座内容は、認知症の理解とチームオレンジに関するもの。

【R5年度】実施回数2回、参加者25人

【R6年度】実施回数3回、参加者71人

【R7年度】実施回数5回、参加者77人

7. 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

【効果】

・声掛け訪問では、「寄ってもらって、声かけてもらってありがたい」「ありがとうね」と高齢者が訪問を喜んでくれている。また、声掛け訪問から地域の集まりの場へつないだり、困りごとに対して支援することもできている。

・研修会や活動をとおして「地域での支え合いが大切」「できることを続けたい」と思ってくれたチーム員がいる。

【課題】

・活動地域に偏りがあり、今後は活動する地域の幅を広げていきたいと考えている。

・チームオレンジメンバーが高齢化しており、次世代へどのように活動を伝えていくか、活動の周知や担い手の確保。

8. チームのアピールポイント

地域住民を大切に想い、暖かな雰囲気の中で熱心に細やかな活動をしているメンバーばかりです。また、研修会で集まると和気あいあいと楽しい雰囲気の中で真剣に活発に意見交換を行います。

9.今後の活動について

活動課題はいくつかあるが、今後もメンバーで集まり話をする機会をつくり、現在の活動を継続していきたい。地域に根差した暖かい活動を行っていきたい。